まえがき　戦争は終わるものではない？

「戦争は終わるものではないと思います」

現在、わたしは埼玉県に住み、本業の家具づくりのかたわら、断続的に戦争をしているイスラエル出身でイスラエル軍兵士の経験があることから、「どうしたら戦争をなくせるか」などをテーマに講演活動もしています。その中で冒頭のような質問（意見）を受けました。

学校で世界史を学ぶと、多くの人は古代から現代まで戦争が絶えないという印象を持つのではないでしょうか。わたしもそうでした。また、戦争は重要なニュースなので世界各地の戦争が毎日のように伝えられ、直近でもロシア・ウクライナ戦争やハマス（イスラム抵抗運動）とイスラエルとの戦闘が各国で大きく報道されていることなどから、冒頭のような意見の人も少なくないのだと思います。「戦争は人間の本能」と言う人すらいます。

しかし、確かに戦争はたくさんありましたが、第1次、第2次世界大戦を含めてどの戦争も必ず終わっています。永遠に続く戦争はないのです。

そして、この世界ではどの時代にも戦争と直接関わらなかった人たちのほうが圧倒的に多かったし、戦争のない地域のほうが圧倒的に多かったのです。ロシアとウクライナの戦争も戦っているのは2つの国だけです。ヨーロッパには54の国・地域がありますが、他の52の国・地域ではほぼ普段通りの生活が続いています。

このような歴史的な事実に気づくと、戦争は人間の本能ではないし、戦争をやめるのは決して不可能ではない、と考えられるようになります。

事実、人類はわたしたちの最も大切な人権、つまり、幸せに生きる権利を奪う戦争は絶対起こしてはならないと、これまで国際連合をはじめとする平和構築のための組織をつくり、核兵器禁止条約など、さまざまな条約を結ぶ努力を続けています。

しかし、まだまだ戦争はなくならず、それどころか、世界に先駆けて戦争を放棄する「平和憲法」を持った日本が、戦争の準備を始める始末です。

２０２３年10月7日、パレスチナのガザ地区からハマス（イスラム抵抗運動）の戦闘員がイスラエル南部に突入、数百人を殺害しました。莫大な予算を使って最新兵器を備え、万全の抑止力を誇っていたイスラエルは、自国民を守れませんでした（第3章の「平和を応援します」という節で詳述）。

次世代に豊かな地球を引き渡すために、大人の責任として戦争をやめるにはどうしたらいいのか。そのカギになるのが、敵に攻められないよう「抑止力」を持つ、「武器による平和」という理屈からわたしたちが卒業することです。それは、決して非現実的でも「お花畑」のような考えでもなく、逆に極めて現実的であることを、皆さんに実感を持って受け止めてもらうために、わたしの体験を参考にしていただけたら幸いです。

わたしは、イスラエルの「国のために死ぬのはすばらしい」と思い込ませる教育を受け、その結果として戦争に何の疑問も持たず、「敵」であるパレスチナ（アラブ）人を殺すことは「仕方がない」と当然のように徴兵に応じ、イスラエル軍に入隊しました（第1章）。

しかし、イスラエル軍による子どもを含むパレスチナ人の大殺戮（だいさつりく）を契機に軍隊を疑うようになり、イスラエルやわたし自身が信奉していた武力による平和、つまり抑止力による平和という考えでは、結局はイスラエルとパレスチナ間の復讐（ふくしゅう）の連鎖を止められないと考えるようになりました。そして２０１１年の福島第１原発事故を経験し、戦争と原発は少数の人の利益のために多数の人が犠牲にされる点でよく似ていると気づき、特にこの２つを止めるために力を尽くすのが自分の使命だと自覚するようになりました（第２章）。

また同年、わたしはユダヤ人である親族も殺されたアウシュヴィッツを家族と訪れたの

ですが、戦争になると普通の人間がここまで残酷になれるのかと打ちのめされました。そして、多くの人が見て見ぬふりをしているうちに600万人ものユダヤ人の大虐殺が引き起こされてしまったという重い重い教訓を得たことから、戦争につながりそうなことに気づくたび、わたしたちが反対の声をあげ続ける大切さを痛感しました（第3章）。

そして、人間を人間でなくす戦争を起こさせないためには、「抑止」という理屈を乗り越え、復讐の連鎖を断ち切る必要があり、そのために大切なのが戦争放棄をうたう日本の憲法第9条だと知りました。このようなわたしの体験を土台に、現在の講演活動やフェイスブックなどでの発信、そして地元埼玉県秩父郡皆野町での実践があります（第4章）。

わたしは夢だった手作りのログハウスに住み、庭の畑でとれた野菜を食べ、ワインを飲む田舎暮らしを満喫しながら、本職の家具づくりに打ち込み、やりがいを感じています。生活には十分満足しています。世の中のさまざまな問題から目をそらすのは簡単です。

戦争、原発、難民、LGBTQ、沖縄の基地問題、気候危機……それらの問題が気になってはいましたが、「しょせんは他人事。人生は短い、遊ばなきゃ損」とわたしは見て見ぬふりをしていました。他方、これらの社会の問題に取り組まず、自分の世界に閉じこもる生活がどこか後ろめたく、また物足りなくもありました。

しかし、２００８年のイスラエル軍による子どもを含むパレスチナ人の大殺戮、そして２０１１年の福島第１原発事故を経験した後、わたしは右に述べたすべての問題の共通点に気づいてしまいました。

それは、人権です。日本の、イスラエルの、世界の人権尊重のレベルが低すぎます。

それは、わたしの人権も十分尊重されていないということです。わたしの子や孫の人権も尊重されていないということです。これに気づいた瞬間、もう見て見ぬふりはできなくなりました。こういう「気づき」は誰にでも起こりうると思います。

どこかで誰かが飢え、苦しみ、うめき、絶叫しています。他人の人権が尊重されないと、いつかそれが自分にもはね返ります。その結果として、日本にも戦争が、ジリッ、ジリッとにじり寄ってきています。

あなたは、それでいいのですか。

さあ、一緒に考えましょう。

２０２３年11月

ダニー・ネフセタイ